

主題：聖書の心臓部——ガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサイ

メッセージ 8

エペソ人への手紙 (4)

信仰を伴う愛を経験し、不朽不滅の中で主を愛する

聖書：エペソ 6:23, 1 テモテ 1:14, ヨハネ 1:12, 14:23

I. 「父なる神と主イエス・キリストから、兄弟たちに平安と、信仰を伴う愛がありますように。……すべての人に恵みがありますように」——エペソ6:23-24：

- A. パウロが「平安」と「恵み」の間に「愛」を挿入した理由は、わたしたちが平安の状態の中に保たれることができる唯一の道が、愛の中で継続的に主を享受することであるからです。
- B. 愛を認識することは極めて重要です。パウロは愛を平安と恵みに関連づけて語りました。このことが示しているのは、わたしたちが平安の状態の中で守られるために愛が必要でということです。
- C. 信仰を伴う愛は、わたしたちがキリストにあずかり、経験するための手段です——1 テモテ 1:14。
 - 1. 信仰は彼を受け入れるためであり、愛は彼を享受するためです——ヨハネ 1:12, 14:23。
 - 2. 「信仰を伴う愛」が示しているのは、わたしたちは愛に対する適合、支えとしての信仰を必要とするということです——テトス 3:15。
 - 3. 召会は信仰を伴う愛の中でキリストを享受する必要があります。信仰は愛を通して働きます——ガラテヤ 5:6。
 - 4. 愛は神からわたしたちへと来て、信仰はわたしたちから神へと出て行きます：
 - a. この愛と信仰の往来によって、平安はわたしたちの分け前としてとどまります——エペソ 6:23-24。
 - b. わたしたちが平安の中に保たれるのは、神の愛がわたしたちに来ることと、わたしたちの信仰が彼へと出て行くことによってです。この往来はまた、継続的な恵みの供給の中にわたしたちを保ち、主の享受の中に保ちます。
 - 5. 愛は神からであり、わたしたちではなく神を起源とします。最終的に、わたしたちに対する神の愛は、彼に対するわたしたちの愛となります——1 ヨハネ 4:19。

II. 「不朽不滅の中で、わたしたちの主イエス・キリストを愛するすべての人に、恵みがありますように」——エペソ6:24：

- A. 恵みが必要とされるのは、わたしたちが召会生活を生きて、神の定められた御旨を成就し、敵に対する神の問題を解決するためです——1:2, 3:2, 8, 10-11, 4:7, 29。
- B. 主を恵みとして享受することは、彼を愛する者たちにあります——6:24。
 - 1. 第1章4節における愛は、神が彼の選びの者たちを愛し、彼の選びの者たちが彼を愛する愛を指しています：
 - a. この愛の中で、神の選びの者たちは彼の御前に聖く傷のない者となります。
 - b. 神がまずわたしたちを愛し、それからこの神聖な愛がわたしたちに靈感を与えて、彼を愛し返させます。

- c. そのような愛の状態と雰囲気において、わたしたちは神で浸透されて、彼と同じように聖く傷のない者となります。
2. 第3章 17節によれば、わたしたちは愛の中に根ざし土台づけられています。神の耕された地として、わたしたちは成長するために根ざす必要があり、神の建造として、わたしたちは建造するために土台づけられる必要があります—— I コリント 3:9。
3. エペソ第4章 15節から 16節が啓示しているのは、わたしたちが愛の中で真実を固く保って、からだは愛の中でそれ自身を建て上げるに至るということです：
- a. これがキリストの中にある神の愛であり、それはわたしたちの中でのキリストの愛となります。その愛によって、わたしたちはキリストと彼のからだの肢体仲間を愛します—— I ヨハネ 4:7-8, 10-12, 16, 19。
- b. 愛は神の内なる実質です。エペソ人への手紙の目標は、わたしたちを神の内なる実質の中へともたらし、わたしたちが神を愛として享受し、神聖な愛の甘さの中で彼の臨在を享受して、それによってキリストが愛したのと同じように、他の人たちを愛することです—— 5:2, 25。
- C. 正当な召会生活のために、わたしたちは不朽不滅の中で主を愛する必要があります—— 6:24：
1. 不朽不滅の中で主を愛することは、旧創造においてではなく、新創造において彼を愛することです—— 2:15, 4:24, II コリント 5:17。
2. 不朽不滅の中で主を愛することは、聖霊が内住している、再生され更新された霊の中で彼を愛することです—— ヨハネ 3:6, I コリント 6:17。
3. 不朽不滅の中で主を愛することは、エペソ人への手紙において啓示され、教えられたすべての極めて重要な事柄の中で、またそれにしたがって彼を愛することです。これらの事柄は次のものを含みます。御父が子たる身分へとあらかじめ定めること (1:4-5)、御子の贖い (6-7 節)、その霊が証印を押し担保を与えること (13-14 節)、神の召しの望み、聖徒たちの中にある神の嗣業の栄光 (18 節)、キリストを万物の上のかしらとして召会に与えた神の超越して偉大な力 (22 節)、わたしたちを生かし、わたしたちを復活させ、天上にわたしたちを座らせたキリストの復活 (2:5-6)、新しい人 (15 節)、キリストの計り知れない豊富 (3:8)、神の奥義のエコノミー (9 節)、イエスにある実際 (4:21)、神の武具の各項目 (6:11-17)。これらはすべて不朽不滅です。主に対するわたしたちの愛はこれらの不朽不滅の事柄の中になければなりません。
4. キリストは不朽不滅であり、召会も不朽不滅であり、エペソ人への手紙において召会と関係のあるすべての積極的な項目も不朽不滅です。
5. 不朽不滅の中で主を愛することは、手順を経て究極的に完成された三一の神の具体化であるキリストのからだの実際にしたがって彼を愛することです。これが意味するのは、わたしたちの存在が三一の神と結合され、ミングリングされ、合併されて四・一の有機的な実体となることです—— 4:4-6。
6. 召会生活のために、わたしたちは不朽不滅の中で、すなわち、不朽不滅で、永久で、滅びない愛をもって主を愛する必要があります—— 5:2, 25, 6:24。